

--- 立地基準の検討 ---

立地選定に際した考慮項目の検討

2013年1月9日

埋設施設の設置に関する技術専門委員会

立地選定に際した考慮項目の検討

これまでの委員会における議論

これまでの委員会で行われた立地基準についての主な議論は以下の通りである。

【第1回技術専門委員会】

- ・ 立地基準は、大別すると、安全、社会、経済等に区分できるのではと考えている。立地基準については、**安全性、経済性、社会的側面等に分類・整理を行うこと。**

【第2回技術専門委員会】

- ・ 本事業の立地基準の評価項目を策定するにあたっては、**must とbetter の評価項目をえり分けて設定することが必要**である。
- ・ 複数の地点が候補となる場合には、「(C)経済性」や「(D)社会的要件」の評価項目が**重要**になってくるだろう。

【第3回技術専門委員会】

- ・ 安全性、環境保全、経済性、社会的要件という4項目で整理することは理解できるが、経済性を安全性と同列に扱うのではなく、**安全性を優先させるなど順序を考慮することが必要**ではないか。
- ・ AHP法で評価するとしても、項目毎のそれぞれの重要度が見て取れることが必要であり、評価結果を説明する時に評価結果の数値にどれだけの意味があるのか、**数値のみならず評価結果の総括について納得できる説明が必要**である。

【第4回技術専門委員会】

- ・ 立地する候補地が決定したのちに立地環境調査を行うこととしているが、立地選定における地点の具体化に際しては、**戦略的環境アセスメント(SEA)の評価項目も参考にすることが必要**と考えられる。
- ・ 地域社会に原子力施設を受け入れるための環境が整っていることは重要な事柄であるが、受入実績が直ちに**受容性に繋がる**とは限らない。
- ・ 地域の理解と協力はある意味一番重要なことなので、評価するときの視点の補足として原子力政策等への理解、協力の取組みなどいくつか具体的に列挙してはどうか。
- ・ 立地選定の際には、「**勉強会**」の様子を**把握し評価する**といった方法で受容性の有無を判断することもあり得る。

立地選定に際した考慮項目の検討

論点1:立地選定に係る基準の位置付け

立地選定プロセスに地域参加の考え方を取り入れるならば、埋設施設の立地選定に係る基準も含めて地域とのコミュニケーションをはかることが必要ではないか。

Q:立地選定プロセスに地域参加の考え方を取り入れる場合、埋設施設の立地選定に係る基準は、事業主体が対象地点の適合・不適合を確認する、あるいは、地点間の好ましさの優劣を評価するという位置付けのままでよいか。

Q:もし、そうでないならば、埋設施設の立地選定に係る基準はどのような位置付けで捉えるべきか。

論点2:地域とのコミュニケーションの場において考慮すべき観点

埋設施設の立地選定に係る基準は、これまでは適合性評価項目として「安全性」と「環境保全」、比較評価項目として「経済性・利便性」と「社会的要件」とに区分され、特に後者については地域社会への影響（デメリット）の有無の観点から検討が行われてきた。

Q:埋設施設の立地選定に係る基準としてこれまで検討してきた上述の前者と後者は、後者にメリットの観点も加えて、

- ① 埋設施設の立地に際した必要最小限の適合性に関する**確認**のための項目
- ② 地域社会にとってのメリット、デメリットに関する**理解と認識共有**のための項目

のように言い表すことができると考えられるが、立地選定プロセスに地域参加の考え方を取り入れるならば、これらに加えるべき他の観点はあり得るか。

立地選定に際した考慮項目の検討

論点3:安全性に関する確認項目としての観点

これまでの埋設施設の立地選定に係る基準は、安全性に関しては主として浅地中処分の安全要件（IAEA）や安全審査における基本的立地条件（原子力安全委員会）を参考に検討が行われてきた。しかし、地域参加の考え方を取り入れるならば、ある候補地点が不適合の場合でも、事業者が一方的に当該自治体を除外するのではなく、地点の代替案をも含めた幅広い議論が行われることを想定した検討が必要ではないか。（**論点1**に関連）

Q:安全性に関する確認項目としては、どのような内容が包含され、地域とのコミュニケーションの場に表示されるべきか。

- これまでと同様の内容で、項目ごとに評価の方法までも含めた内容とするのがよいか。
- 例えば、IAEAの安全要件や、原子力安全委員会の安全審査における基本的立地条件等を参考として示すに留めるのがよいか。

論点4:環境保全に関する確認項目としての観点

論点3と同様に、環境保全に関する項目についても、ある地域が不適合の場合に事業者が一方的に除外するのではなく、候補地点の代替案や地域事情に即した土地利用条件等を含めた幅広い議論が行われることも想定した検討が必要ではないか。

Q:環境保全に関する確認項目としては、どのような内容が包含され、地域とのコミュニケーションの場に表示されるべきか。

- これまでと同様の内容で、項目ごとに評価の方法までも含めた内容とするのがよいか。
- 例えば、一般的な環境法令、土地利用関連法令等を参考として示すに留めるのがよいか。

立地選定に際した考慮項目の検討

論点5: 経済性・利便性及び社会的要件に関する議論の観点

これまでの立地選定に際した考慮項目は、経済性・利便性、及び社会的要件に関しては、どのように好ましさの優劣を評価するかの観点から検討が行われてきた。

しかし、地域参加の考え方を取り入れるならば、地域間の優劣を事業者が一方的に評価するのではなく、地域の特性（メリットとデメリット）を地域社会が十分に理解した上で、対策案等を含め幅広い議論が行われることも想定した検討が必要ではないか。

Q: 経済性・利便性及び社会的要件に関する議論の拠り所としては、どのような内容が包含され、地域とのコミュニケーションの場に示されるべきか。

- これまでと同様の内容で、項目ごとに評価の方法までも含めた内容とするのがよいか。
- 例えば、諸外国において検討された考慮事項等を参考として示すに留めるのがよいか。
- 特に経済性・利便性や社会的要件については、地域社会へのメリットやデメリットに関していかに円滑に理解と認識共有を得るかが焦点となる。このために、検討しておくべき事項はないか。

立地選定に際した考慮項目の検討

(1) 安全性 (A) に関する考慮項目(案)の例 [断層 (活断層)]

評価項目				項目としての 設定根拠	評価の指標(検討案)		文献調査等の情報源(例)
大項目	中項目	小項目	細目		基本的考え方	評価の方法	
(A) 安全性	(A1) 自然環境	(A12) 地質 及び 地形等	(A121) 断層 (活断層)	<p>大きな事故の誘因を排除し、また、万一事故が発生した場合における影響の拡大を防止する観点から、埋設施設の敷地及びその周辺における当該事象を考慮して、安全確保上支障がないことを確認することが必要。</p>	<p>当該事象に関して、安全確保上支障がないこと。</p>	<p>活断層による影響が、安全確保上支障がないことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活断層研究会編:[新編]日本の活断層 ・産総研:1/5万地質図幅 ・産総研HP:活断層データベース ・中田・今泉編:活断層詳細デジタルマップ ・国土地理院:都市圏活断層図 ・公的機関の個別文献